# 六つのエンタメゾーンと100のショップ&レストラン

## お台場を代表する屋内型複合施設

### デックス東京ビーチ

「デックス東京ビーチ」全景

レトロな雰囲気の「台場一丁目商店街」

東京・お台場の「デックス東京ビーチ」は、六つのエンターテインメントゾーンと、およそ100のショップ&レストランを備える、お台場を代表するスポットだ。雨の日でも楽しめる屋内型複合施設で、国内外の観光客や修学旅行生から人気を集めている。

遊びのゾーン、商業施設とともに、高いエンターテインメント性を持つことが大きな特徴だ。

六つのエンタメゾーンの一つ「台場一丁目商店街」は、昭和30年代の下町を再現したゾーン。駄菓子や和雑貨を販売するレトロな店舗は親世代には懐かしく、子供世代には新鮮に映ることだろう。昭和時代を学ぶ教材にもなりそうだ。

「お台場たこ焼きミュージアム」は、たこ焼きの本場、大阪から選りすぐりの名店が集結。

「東京トリックアート迷宮館」は、不思議で楽しいトリックアートの世界を肌で感じることができる。

このほか国内最大級の屋内型テーマパーク「東京ジョイポリス」、レゴブロックが楽しめる「レゴランド・ディスカバリー・センター東京」、スターの等身大フィギュアがいっぱいの「マダム・タッソー東京」の各ゾーンも見逃せない。

一方、屋外にも必見のスポットがある。「お台場イルミネーション"YAKEI"」だ。

通年点灯するイルミネーションで、見どころは三つ。「台場メモリアルツリー」は、高さ約20メートル、幅10メートルの、生木としては都内最大級のツリーを中心に、全長約200メートルに広がる樹木を約22万球の電球で包んだ光の装飾。

「イリュージョンドーム」は、人の動きを感知して、トンネル型の壁面と床面の360度に映像を投影する、アジア初のプロジェクションシステム。

「ハート型オブジェ」は文字通りのハート型のオブジェだが、「台場メモリアルツリー」「都心の夜景」「レインボーブリッジ」をワンカットで撮影できる場所として人気を集めている。

ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅から徒歩約2分。りんかい線「東京テレポート」駅から徒歩約5分。

東京都港区台場1の6の1。☎03(3599)6500。http://odaiba-decks.com/

美しいイルミネーション"YAKEI"

## 京都　東映太秦映画村

### 見る・学ぶ・作る・参加する

清水焼絵付け

東映太秦映画村(京都市右京区)では、修学旅行生に体験学習プログラムが人気。「見る・学ぶ・作る・参加する」をテーマに、京扇子、京うちわの手描き体験のほか、清水焼絵付け体験などがある。

班別研修用には、少人数用のメニューとして、清水焼ろくろ体験、清水焼絵付け体験、京扇子絵付け体験、京念珠ブレスレット作りがある。いずれも1回で15人まで体験できる。旅の思い出の品になると好評だ。

映画村ならではの体験としては「お手軽時代劇扮装」がある。メイク、かつらを省いて着物の着付けのみのお手軽プラン。短時間で変身し映画村の江戸の町を散策できる。

「寺子屋おもしろ体験」は、江戸庶民の生活の知恵にスポットを当てた。映画製作用の小道具を使い、映画村の俳優が時代劇の扮装で講師を務める。

### 京扇子の手描きや清水焼絵付け体験

「大江戸暮らし編」と「大江戸環境編—江戸時代は循環型社会—」の2コースがある。

村内もリニューアルで新アトラクションが次々と登場している。

3月19日には「レーザーミッション　脱出の城」がオープン。武将・織田信長が支配する架空の魔城から八つの罠を突破して脱出する体験型アトラクション。城の中は一本橋やスライダーなどのアスレチック、プロジェクションマッピングで演出される不思議な空間などの仕掛けがある。

昨年3月にオープンした「立体迷路　忍者の砦」は、高さ10メートル、3階建て240ブロックの屋内型立体迷路で日本初登場。屋内の特性を生かし、迷路の中では岩落とし、吊り天井など忍者の仕掛けたギミックやアスレチックが楽しめる。

「からくり忍者屋敷」は、「どんでん返し」や「隠し通路」など、たくさんのからくりを利用して忍者屋敷の出口を目指す。

「まるごととびだす超立体360シアター」は、3Dメガネ着用で、周囲360度全周型の大スクリーンに迫力のある3D映像が映し出される。

「おもしろ迷路館」は、錯視を利用した不思議な感覚が味わえる迷路のなかに「錯覚の部屋」「鏡の迷路」「斜めの部屋」といった部屋を設けた。

「太秦トリックアートの館」は、映画村らしい和をテーマにしたトリックアートが楽しめる。

「忍者修行道場」は、手裏剣や丸太橋渡り、城壁のぼりや鳴子くぐりなど様々な忍者の試練が体験できる。

パンフレットの郵送、申し込みなど体験学習に関する問い合わせは東映太秦映画村(☎075・864・7716)まで。

お手軽時代劇扮装で散策

レーザーミッション 脱出の城

# 見て、触れて、学べる「トリックアート美術館」

おかみさんに服を引っ張られているような演技を！

絵画に気軽に親しんでほしいとの想いから創られた「トリックアート」。通常の美術館と異なり、作品に触れることもでき、会話も楽しめる自由な雰囲気の中、遊びながら学習ができると中学・高校をはじめとする修学旅行で注目のスポットになっている。その中心となる施設が東京都お台場と栃木県那須町にあり、館内では作品に入り込んで写真を撮って楽しめるのはもちろん、錯覚を実際に体験できる作品や錯覚クイズ作品など、「美術や心理学について生徒が興味を持つきっかけとなる」と人気を集めている。

東京・お台場にある「東京トリックアート迷宮館」は、江戸をテーマにした和風のトリックアートや人気作を展示する体験型の美術館。東京屈指の観光スポット、お台場の中心にあり、平日でも多くの一般客や修学旅行客でにぎわっている。

2014年5月のリニューアルで、最新作が登場し、今まで以上に楽しく学べる内容になった。

迷路のような館内は、五つのテーマで構成。このうち「江戸エリア」は、江戸の宿場町や町人町を再現したエリア。まるで江戸時代にタイムスリップしたかのような感覚でトリックアートを楽しめる。作品の一つ、"江戸宿場町"では、来場者が茶屋のおかみさんに引っ張られているような演技をすると、人が絵画の中に入ったかのような写真が撮れる。

「怖くないお化け屋敷」エリアでは、どこか間抜けで憎めない表情をしたお化けたちが来場者を待ち構えている。お化けに食べられそうになる、ユニークなお化けとのツーショット写真を撮れるのが楽しい。

## 東京トリックアート迷宮館　錯覚を楽しく体験

このほか「トリックアート名作エリア」では、過去に発表されたトリックアートの人気作の数々を展示。「脳トレコーナー」では、見る人の脳を刺激する錯覚を使ったクイズ作品に挑戦しよう。

「グッズコーナー」には、トリックアートのオリジナルグッズや関連書籍がそろっている。

作品、内容ともに充実しており、楽しみながら学習ができる美術館として評価も高い。

エンターテイメントやショップ、飲食店が入った複合施設「デックス東京ビーチ」(ゆりかもめ「お台場海浜公園」駅前)4階にある。

▽東京トリックアート迷宮館は、東京都港区台場1の6の1、デックス東京ビーチ4階。☎03(3599)5191。不定休で、午前11時から午後9時まで営業。入場料大人900円、中学生以下600円。

フクロウの目が動いて見える!?

3人のおじさんの大きさは???

自由に見学が可能なトリックアート工房

## 制作工房を開放

### 那須とりっくあーとぴあ

栃木県那須町の「那須とりっくあーとぴあ」は、「トリックアートの館」「トリックアート迷宮?(はてな)館」「ミケランジェロ館」で構成された日本で最大のトリックアートテーマパーク。

2016年2月、「トリックアート迷宮?(はてな)館」を大規模リニューアルし、最新作17点が登場。この館のテーマである「マジックとファンタジーの世界」をより体験できるようになった館内には驚きと笑い声があふれている。特に錯覚を使ってマジックを体験できる作品の数々は子供から大人まで楽しめ、人気を博している。

「トリックアートの館」と「ミケランジェロの館」もそれぞれ趣向を凝らしており、3館すべてを見学することでトリックアートの過去から現在までの歴史を感じられるようになっている。

また、施設には制作スタッフたちがトリックアートの新作を創造する工房が併設されており、自由に見学することができる。「感受性の高い中・高生に絵画の制作過程を見ることで、創ることの楽しみを感じてもらいたい」と、制作の現場を無料で開放している。

「トリックアート」は、エス・デーの創始者、故劒重和宗氏が新たに創り出した体験型のアート。同社では劒重氏の遺志を受け継ぎ、「多くの人に絵画への関心を持ってもらう」ことを社是とし、作品を国内外へ広く提供。各地でのトリックアート美術館や、特別展の開催に協力している。

▽那須とりっくあーとぴあは、栃木県那須郡那須町大字高久甲上ノ台5760。☎0287(62)8388(代表)。年中無休で、午前9時半から午後6時まで営業(10～3月は午後5時まで、8月は午前9時から)。入場料各館大人1300円、小中学生800円(2館、3館共通チケット、団体割引あり)。

# 伊勢志摩学生団体誘致委員会

## 教育旅行の受け入れ促進

### 旅行会社を現地招請

### 目標は新規50校・5000人

伊勢志摩学生団体誘致委員会(学誘委。小見山健司委員長=鳥羽市観光協会特別顧問)は、三重県、伊勢志摩地域の3市1町(伊勢市、鳥羽市、志摩市、南伊勢町)、各観光協会、商工会議所、商工会、漁協、宿泊施設、観光施設、旅行会社など47団体が一体となり、国内・海外からの学生団体旅行などを誘致することを目的に2006年に発足した団体だ。事業主体を伊勢志摩観光コンベンション機構(鈴木健一会長=伊勢市長)内に置く。

修学旅行の他にも、各種サークル活動の合宿や大会の開催、教育関係者視察旅行など、教育旅行全般の受け入れ態勢の整備拡充を図っている。

学誘委発足の背景には、同地への修学旅行生数の激減がある。昭和初期の最盛期には全国から約200万人が訪れ、伊勢神宮の参拝などを行っていたが、現在では約10万人となっている。

今年5月26、27日に伊勢志摩サミットが開かれ、開催後には国内外から訪れる観光客の大幅な増加が期待される同地だが、教育旅行の誘致については、さまざまな地道な努力を続けている。

その一つが、旅行会社の教育旅行営業担当者らを対象とした現地招請事業だ。学誘委が掲げる当面の目標は「新規校50校・5千人」。15年2月にトップツアー(現・東武トップツアーズ)の東北ブロック教育旅行担当者を現地視察に招致。その結果、インバウンド宿泊客の増加などで京都の連泊確保が難しくなった学校を伊勢志摩に誘導してもらうことで、同社扱いだけで13校・約1200人の新規誘致に成功した。

今年は3月22、23日の1泊2日で、東武トップツアーズの中部統括部教育旅行担当者計20人を現地視察に招致。1日目に志摩自然学校(体験型施設)、アクアヴィラ伊勢志摩、ホテル志摩スペイン村、伊勢志摩ロイヤルホテル、扇芳閣、鳥羽グランドホテル、神宮会館(全て宿泊施設)を見学。2日目午前は伊勢神宮の内宮(ないくう)の早朝参拝と、参道に土産物屋、食事処、観光施設が建ち並ぶおはらい町・おかげ横丁の見学を行った。午後からは、各観光協会、各宿泊施設、三重交通、近畿日本鉄道などが18のブースを出し、総当たりで中身の濃い意見交換会を実施した。

伊勢神宮内宮の早朝参拝は、1クラスに1人の案内人を付け、早朝の伊勢神宮を巡りながら、伊勢神宮の歴史的・文化的価値を説明する教育効果の高いプログラムで、神宮会館(収容人数270人)が98年から実施している。

また、教育旅行では必ずと言ってよいほど訪れる施設が、伊勢神宮の外宮(げくう)にある「せんぐう館」。20年に一度、隣接地に新しいお宮を建て替える式年遷宮(第62回は13年)が伝えてきた心と技を、美しい展示と分かりやすい説明などで紹介する新しいタイプの博物館だ。

せんぐう館は、4月下旬に開かれる「2016年ジュニア・サミットin三重」の会場にも指定されている。G7各国の15歳から18歳の若者がここを訪れ、「次世代につなぐ地球～環境と持続可能な社会」をテーマに討議や見学会を行う予定となっている。

伊勢神宮内宮の早朝参拝

せんぐう館

意見交換会の様子